

# かいはつ



## 第39号

題字 岡崎小

2年 鈴木康平

写真上 電車でゴー

左 ねらえ  
ホールインワン

岡崎市現職教育委員会 特殊教育部会

平成10年12月14日発行



## A君の家は遠いね

六ツ美西部小学校長

渡辺勝英

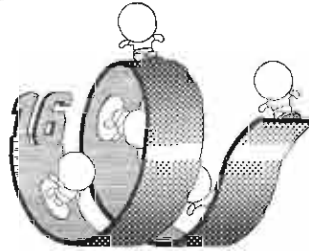
学校からA君の家へ行く道順を知る授業が行われている。A君が道順にそつた風景のビデオを見ながら説明する。「学校です。ここから東へ向かいます。横断歩道を渡つてこちらへ曲がつて。神社を通り過ぎるところが僕の家。みんな分かった？」と自分の家がテレビに映じだされたことに喜びいっぱいの子供で、ていねいに説明する。途中で、二人の友だちに「分かった？」と確認している姿も見られた。B君は、「A君の家は遠いね」と、気づいたことを皆に話しかけている。天気予報の日本地図に興味を持つC君は、目印となる言葉や方角を何度も口に出して言っている。その後、大きな床地図と目印となる写真が置かれ、床地図の上を人形を使って歩かせるといった学習へと進んでいった。子供たちは自信に満ちた顔をして、目を輝かせて授業に取り組むことができた。

ここで大切なことは、なぜ子供たちがこんなに意欲を持って学習に取り組むことができたかということである。担任のM先生は、生活単元学習を「子供たちの真の子供らしさを学校生活の中で生き生きと発現させたいもの」として位置づけている。子供たちが目を輝かせて授業に取り組むために、子供たちそれぞれの要求や願いをできるだけ大切にし、子供たちが活動しやすいようにと道筋が作られて授業が構成されている。子供本来の楽しみをもとにして作られた授業であるからこそ、子供たちの思いが生かされ、生き生きとした活動が展開されたのである。M先生の用意周到な教材研究と地道な実践が見事に実を結んだと言えるよう。

プログラム

- 1. いち、にの、さんぼ (全員)
- 2. トラだいじだぞ! (全員)
- 3. ねえ ひっぱって! (小高)
- 4. 得点王をめさせ (中親)
- 5. ポケモンゲットだぜ! (小低)
- ▲ おべんとう ▲
- 6. 電車でゴー! (中)
- 7. ねえ! ホールインワン (小親)
- 8. 徒競走 (中)
- 9. じゃんけん列車 (全員)

第16回 子どもと親の集い運動会



九月十八日に、岡崎市中央総合体育館で「第十六回子どもと親の集い運動会」が盛大に開催されました。どの種目にも明るい笑顔で活躍する子どもたちの姿がみられました。周りには温かく支援する保護者や先生方。みんなが一体となった楽しい運動会でした。



得点王をめさせ

**親の声** 初めて参加して  
三島小 戸田ちひろ

今年初めて、三歳の妹も連れて参加させていただきました。準備や他の学年がゲームをしている間「待つ事」は子供たちにとつて大切な事だと思えますが、張り切つて母子三人で参加したにもかかわらず、「玉入れ」で一回しか玉を投げられなかったのは、悔しく残念でした。でも、久しぶりに会つた友と母子共に楽しい一日を過ごせ、このような機会を与えてくださったことに感謝しております。ありがとうございます。そして、ご苦労様でした。

**教師の声** 「得点王をめさせ」の製作  
井田小 兼松ゆかり

ワールドカップで世界中がわいた今年、どうしてもサッカーを演技に取り入れたいと思いました。親子二人三脚で走るのはなかなか難しいようでしたが、一つでもたくさんボールをゴールさせようと、必死にボールをける子供たちの表情「まだボールあるよ」と応援するチームの子供たちの大きな声。ワールドカップ同様熱く燃えることができたようです。



トラだいじだぞ

**子どもの声** 三島小 戸田あさ美

うんどつかいにいったよ。とらのたまいれをしたよ。むずかしかつたよ。さんぼのたいそうとぼけもんにでたよ。おかあさんとみなみとごるふもしたよ。おうえんもがんばつたよ。

**教師の声** お手伝いをしました  
竜海中 永井 惇也

ぼくは低学年の子たちがやった「ポケモン、ゲットだぜ」の順位の紙をわたすお手伝いをしました。走り終わった子が、はやく行つてしまうので、走つて紙をわたしました。来年も、同じようにお手伝いをしたいです。



私たちがお手伝い



じゃんけん列車

子どもの声 長い長い列車だよ



大門小 岡松みず穂

どんどんかかって、わがふえてきたよ。くびがあつくなつたよ。まえば見えなくなつてきたよ。

とうとう、ぜんぶかちやつた。おかあさんも先生も大よろこびしたよ。名前をいうとき、ドキドキしたけど、ぜんぶかつて、すごくうれしかった。

六南小 鈴木 良崇

せき先生を見つけて、「いつしよにやろうよ。」といつたら、先生が、「いいよ。」といった。

先生のうしろにくつついて、はなれないようにしゅっぱつした。

長い長いれつしゃになつたんだよ。



# 思いを伝えたい

知立東小学校

尾崎由美子

新卒から十七年勤めた岡崎市から、知立市に転任して八カ月が過ぎました。新しい環境になかなか対応できずにあたふたしているところへ「かいはつ」の原稿依頼のお話が来ました。岡崎にとつて私は、もう過去の人間になってしまったのかと寂しさを感じながら、お世話になった方々に紙面を借りて感謝の気持ちを伝えたいと筆を執ることにしました。

## 失敗を繰り返して

十二年前、矢作東小学校で初めて特殊学級を担当しました。知的障害のあるA子、話をしないM男、自閉的傾向のあるY男の三人がいました。三人三様でその指導に戸惑うばかりでした。個々に良いところをたくさんもっていたのです。できないことばかりが目につきイライラしていました。

この年の指導員訪問の時のことです。算数でケーキやチョコロールを紙で作り、それを釣って数を数えたり、比べたりする授業をしました。自分では子供たちの好きなお菓子を使ったことで意欲づけができたと思つたのですが、当時の指導員の渡辺先生に「こういう子供たちの学習ではお菓子を釣るといった非現実的なことは避けた方がよい。魚を釣るといふ生活にあることを指導に活かしていくことが大切ですよ。」と教えていただきました。こうした苦い経験を繰り返して、多くの先生方に教えていただく中で、子供たちを見つめ何をどう教えたらよいか少しずつ考えられるようになりました。



言葉の指導を通して子供たちと色々な学習をしましたが、特に力を入れたのは言葉の指導です。学校が作文や言語表現力の研究をしていたこともありましたが、生きていく力としての話す力の必要性を感じてどの子ども

分の思いを伝えたいと思つていました。しかし、発音がうまくできない、言葉を知らない、人と関わるのが苦手等、様々な理由でうまく話ができない子供が多いのです。まずはあいさつをすること、次に単語で要求を伝えることを教えました。ごっこ遊び、お店屋さん、学区探検など体験を通して言葉の覚え、人との関わりの中で、伝える喜びを経験できるように単元を考えて実践しました。指導の成果がどれほどあつたかは分かりませんが、卒業生と電話で話ができること、はうれいしいことです。

## 研修報告

最後に子供たち以上に言葉たらずでコミュニケーション

四月から九月までの半年間、愛知教育大学へ内地留学をすることができました。週一回、金曜日に臨床心理学と検査法の講義を中心に、研修に参加しました。

臨床心理学では、カウンセリングの話が中心で、一般の社会人のケースをはじめ、障害児や障害児の親のケースなど、具体的に例を挙げて講義をしてくださり、カウンセリングについて知るよい機会になりました。

## 私の教室日記

丁君と共に

尾崎由美子

丁君と四年一組の子供たちとの交流学習が始まって七か月が過ぎた。初めて関わる子もいて、四月当初は子供たちの接し方も何となくごちなかつたが、運動会の練習や給食、掃除などを一緒に行ううちにどの子も自分なりに丁君と関わりがもてるようになってきた。

二期に入り、社会見学の班を決める時、  
「先生、今度の社会見学丁君も一緒に行くんでしょう。」

「じゃあ、僕たちの班に入れてあげるよ。」

「僕がしおりを作つてあげるよ。」  
あちこちからすつと声上がる。クラスの中ではわがままを言ったり自分勝手な行動に出ているA夫やB夫が丁君を交えての活動になると自分をおさえ、丁君ができなくて困っていることを一生懸命手伝つてあげようとする。丁君と出会い丁君と一緒に学ぶことによって、思いやりや助け合いの心を自然に育てている子供たち。そんな子供たちの姿に私も多くのものを学んだ。子供たちと共にさらに交流を深めていきたいと思つている。